

マガレイ (沖まこ、あかじまこ)



生態的特徴等

【生態】瀬戸内海・若狭湾以北の日本沿岸に分布する。茨城沖に生息するのは仙台湾～鹿島灘の系群と考えられ、主分布域は仙台湾である。分布水深は75～150mとされる。マコガレイによく似るが、無眼側の尾びれの付け根が黄色みを帯びていることで区別できる。また、分布水深はマコガレイより深場である。主に多毛類を食べる。成長は1歳で全長15cm、雄はそれ以降成長が鈍くなり、全長20cmを超えるとほとんど成長しない。雌は2歳で全長22cm、3歳で27cm、4歳で32cmになる(図1)。寿命は10年程度で、2歳でほぼ成熟し、産卵期は2～5月とされる。

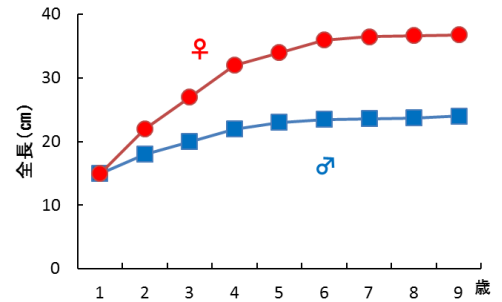


図1 マガレイの成長

【漁法と盛漁期】主に底曳網で漁期(9月～翌年6月)を通して周年漁獲される。

【利用】焼き物や煮魚として食される。茨城県では鮮魚での流通が主。

資源水準は低位、動向は減少傾向

(漁獲量) H16～18年は20トン前後の漁獲があったが、それ以外の年は1～11トンで推移していた。しかし、R2年以降漁獲量は1トンを下回り、R6年およびR7年は漁獲がなかった(図2)。

(水準と動向)資源水準は、過去の底曳網(小底5t以上)の漁獲量から計算したCPUE(kg/隻・日)の推移から「低位」、動向は、直近5年間のCPUEの傾向から「減少」とした(図3)。

水準



動向

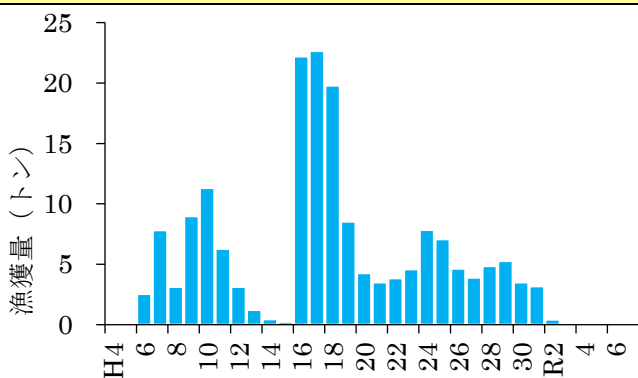


図2 マガレイの漁獲量(属地、水試システム)

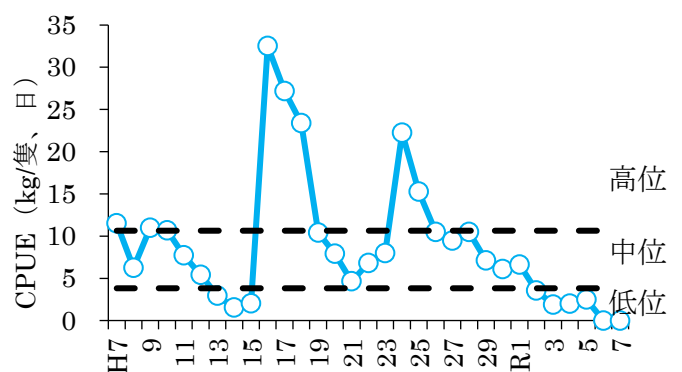


図3 マガレイのCPUE(小底5t以上)

【全国の漁獲動向】

茨城県以外の主な産地は、宮城県、福島県や北海道など。